

「宮崎夢丸」の摘果方法の違いが収量、階級比率に及ぼす影響

「宮崎夢丸」に適した摘果方法は、粗摘果のみを行う方法で、収量向上と省力化が期待できる

背景・目的

- 種なしキンカン「宮崎夢丸」は、ネイハキンカンより果実が小さいため、収量や階級比率（果実の大きさ）の向上が課題です。
- 「宮崎夢丸」の大玉生産による収量向上を目指し、摘果方法について検討しました（表1）。

表1 摘果方法の違い

試験区	粗摘果（9月）	仕上げ摘果（10月）
摘果区	2個成り果、傷果、極小果を摘果	結果枝10cmにつき最大1個に摘果
少摘果区		結果枝10cmにつき最大2個に摘果
粗摘果区		なし



写真1 完熟出荷作型の「宮崎夢丸」

成果の内容

- 摘果量が少ないほど、樹冠容積（樹の大きさ）当たりの収量は増加傾向にあります（表2）。
- 摘果方法の違いが果実重や階級比率に及ぼす影響は小さいです（表2）。

表2 摘果方法の違いが、収量、階級比率に及ぼす影響（露地栽培）

年度	試験区	樹冠容積 m ³	結果数 個	果実重 g	1樹収量 kg	樹冠容積当たり収量 kg/m ³	階級比率（重量）				
							S以下 %	M %	L %	2L以上 %	
2023	摘果区	2.5	422.7	7.7	3.2	1.3	46.5	b	49.6	3.9	0.0
	少摘果区	2.4	431.0	8.7	3.7	1.6	30.0	a	55.7	14.3	0.0
	粗摘果区	2.4	473.7	8.0	3.8	1.6	40.1	ab	52.4	7.5	0.0
有意性		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	-	
2024	摘果区	4.1	289.0	8.8	2.5	0.6	33.5		55.3	10.7	0.5
	少摘果区	3.3	372.3	7.6	2.8	0.9	46.0		50.3	3.5	0.3
	粗摘果区	3.9	458.0	8.4	3.8	1.0	41.9		50.6	7.3	0.2
有意性		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

※樹冠容積は、長径（m）×短径（m）×樹高（m）×0.7で算出

調査日：2023年度：2023年6月26日、2024年度：2024年10月28日

※2023年：n = 3樹、2024年：n = 3樹

※収穫日：2023年度：2023年12月20日、2024年度：2024年12月11日

※Tukey多重検定法（階級比率（重量）は、アークサイン変換後）により、*は5%水準で異符号間に有意差あり。n.s.は有意差なし。

成果の活用方法（又は期待される効果）

- 施設栽培の完熟作型でも同様の成果が得られており、栽培管理等の資料に新たな技術として掲載し、講習会等で普及を図ります。
- 普及対象地域 県内の「宮崎夢丸」栽培地域一円

留意点

特になし

関連研究成果カード：2025年度整理番号22
研究期間：2019年～2023年度

関連事業名：宮崎特産柑橘の次代に対応した栽培技術開発（県単）

宮崎特産ヒユウガナツ・キンカンの省力安定生産技術開発（県単）